

3. 包括的な相談・支援体制

(1) ケアラー支援の活動拠点の設置

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) －(終了)
ケアラー支援に係る情報の一元化とケアラーが抱える課題解決の迅速化を図るため、ケアラー支援の活動拠点の設置をします。	ケアラー支援室を中心に、広報・啓発活動を行い、スマイルサポーターを始めとして活動を行っている。	○	→
評価(意見・要望)		施策の方向性	
施策内容① ・町なかで他との連絡もとやすくサポーターの活動もしやすいのではと思います。 ・連携がとれて活動しやすい。 ・ケアラー支援室を中心に広報啓発活動を実施していただきたい。 ・SOSを出せないヤングケアラーがいる。家族の介護を「当たり前」だと思い相談できない実情がアンケート結果から読み取れます。こうしたことをどのようにくみ上げるのが課題です。		「サンタの笑顔」にあるケアラー支援室を中心とした支援の展開を今後とも進めてまいります。 ヤングケアラーの支援では、当事者が「気づく」機会を作ることと、関係者が「見守り」の中での必要時の支援が可能な体制づくりを進めていく予定です。※再掲 ヤングケアラー支援の中核になる組織は、子育て世代包括支援センターになります。ケアラー相談も相談窓口の一つになりますので、今後とも両者の連携し、子どもたちが相談しやすい環境づくりを進めてまいります。	

(2) ケアラー支援専門員の配置と相談窓口の設置

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) －(終了)
①まちなかケアラズカフェ「サンタの笑顔」にケアラー支援専門員を配置し、ケアラーが気軽に相談できる窓口を設置します。	ケアラズカフェ「サンタの笑顔」にケアラー支援専門員を配置し、相談を受けている。令和5年3月23日の時点での相談件数は延べ46件である。	○	→
②中部・南部地区など各地域へ出張相談を実施します。	現在は訪問活動を主として行っている。3/16現在で延べ212件見守り訪問を実施。	△	→
③ケアラーのための交流会や各種講座等を開催します。	コロナ禍により、イベントの自粛もあり、実施できず。令和5年度の状況を見ながら実施予定。	○	→
評価(意見・要望)		施策の方向性	
施策内容① ・相談窓口の活動時間、内容は工夫、改善の必要があるのではないのでしょうか。 ・スマイルサポーター、ケアラズカフェなど長く続けられてこられた結果、今の認識(受け手側の)になっていると思います。※再掲 ・口コミで相談者が増えると思う。		スマイルサポーターによるケアラー支援の相談には、来所・電話相談の方法がありますが、より利用しやすい相談窓口の検討及び周知活動を進めてまいります。	
施策内容② ・活動内容がよくわからないので、報告等の機会があれば良いと思います。 ・訪問活動は大変と思うが実施してください。 ・スマイルサポーター、ケアラズカフェなど長く続けられてこられた結果、今の認識(受け手側の)になっていると思います。※再掲		出張相談は、角田の改善センター及び南部公民館で行われています。ケアラーサポーターの訪問活動ともつながりますので、活動報告の場を検討いたします。	

施策内容③ ・ 今後実施してほしいと思います。 ・ 今年度は出来そうですね。 ・ 実施してください。 ・ スマイルサポーター、ケアラーズカフェなど長く続けられてこられた結果、今の認識（受け手側の）になっていると思います。※再掲	交流会及び講座開催は、コロナの状況を見ながら、地域の皆様の要望を踏まえながら開催を進めます。
---	--

（３）ケアラーアセスメントの見直し

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○（概ねできている） △（準備中） ×（要検討・未着手）	方向性 →（継続） △（変更） －（終了）
ケアラーが行う介護の状況や、介護をすることによってケアラーの心身に与える影響などを明らかにするため、マネジメント機能の導入やアセスメントシートの見直し等を行います。	アセスメントの実施方法を含めて、協議中。	△	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容 ・ ケアラー支援のためにはケアラーアセスメントは必要情報なので実施実現に向かってほしいです。 ・ 大事なことと思います。 ・ 検討をお願いします。		ケアラーアセスメントは、アセスメントシートの見直しを行い、マネジメントと一体的に行う予定です。なお、ケアラーサポーターの訪問活動とつなげながら、試験運用の予定です。	

(4) 重層的支援体制の整備

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) －(終了)
ケアラーのうち被介護者が複数名いる方、病気または、障がいをもつ子どもを育てている方、生活困窮の方など、経済事情を含めた複雑化した相談に対応するため、地域住民や各分野の様々な専門職が連携し包括的に支援を行う体制を整備します。	８０５０問題などの多世代問題や経済的な事情等を絡んだ複合的な問題を抱える世帯の支援方法や情報の共有化を目的として、重層的支援会議を開催している。ヤングケアラーの事例に関しても同会議にて検討した。 本会議では、情報の共有化と支援方針の決定を世帯全体から捉えてことができるため、会議参加者が世帯構成員への理解とそれぞれの生活課題を把握し、適切な状況判断に基づくスムーズな支援を行うことができている。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容 ・ 複合的問題の取り扱いには、各分野間の情報共有、連絡など支援体制の確立。話し合い、会議など解決に向けての組織作りが必要だと思えます。 ・ 相談しやすい窓口を求む。 ・ 検討の結果はいかがでしたか。 ・ ぜひとも本支援体制の強化を望むものです。栗山で住み続けられることが大切。 ・ 庁内のすべての課所が参加する「庁内ケアラー支援連携会議」を設置し、在宅サービス、インフラ、新しい公共施設、働く場、生涯学習などの在り方について介護予防の視点から取り組んでいくことが求められる。		栗山町では、包括的相談支援事業の中で「重層的支援会議」を実施してします。庁内関係者での検討ケース、多機関協働で行う支援ケースに振り分けて実施し、情報の共有化や課題解決に向けた取り組みを行っています。今後とも継続して予定です。 役場関連課所のケアラー支援にあたっての横断的な会議は、課所長会議がそれに代わるものとして位置付けております。	

(5) ヤングケアラーの相談支援

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) －(終了)
ヤングケアラーを早期に発見し、必要な支援を行うため、教育分野と連携し、相談窓口の設置と支援体制を整備します。	ヤングケアラーの相談窓口は、栗山町子育て世代包括支援センターが担い、教育委員会、学校や関係機関と連絡調整を行っている。また、今後の支援の材料として、ヤングケアラー実態アンケートを令和4年11月に実施した。	○	→
評価(意見・要望)		施策の方向性	
施策内容 ・相談する相手がいない、誰に相談すればなどがありますので窓口を広げ理解を得られるよう体制を整える。 ・相談窓口を広く知ってもらい、気軽に利用してもらえよう活動方法を考えてほしいと思います。 ・特にヤングケアラーは負担軽減し、一般的に過ごすであろう青春期の楽しみを感じてほしいです。年齢を重ねた時に沢山の人脈に繋がります。 ・ケアに関して支援してほしいとのアンケート結果、他人に支援してほしいと問いに特にないが52%もあるのはいかなものか。 ・ヤングケアラー支援は行政と学校の取り組みでは解決しない問題であることから「子どもお話し隊」を設け、子どもたちの目線で家族の在り方、友達との問題、子供会活動などについて情報発信していくことが必要ではないか。 ・引き続き本年度も「ヤングケアラー実態アンケート」実施をお願いしたい。		ヤングケアラーの支援では、当事者が「気づく」機会を作ること、関係者が「見守り」の中での必要時の支援が可能な体制づくりを進めていく予定です。 また、アンケートについては、実施による一定の効果があつたと捉えており、アンケート項目を再検討しつつ、今後も継続して実施することを考えております。※再掲 子ども同士の関係性は、発育過程でも重要なものであり「子どもお話し隊」の設置は、今後の施策を進める上で参考にさせていただきます。	

(1)～(5)の一括評価(意見・要望)	施策の方向性
・アンケート実施や色々な機関や窓口ができたことはとても前進していると思いきやよかったと思います。ただ窓口で相談者が直接来るのを待っていてもなかなか来る人にとっては現実的ではないところは事実だと思います。手を差し伸べていく家庭が必要。個々に対し見守りや傾聴など⇒機関との連携	相談者が相談窓口に来所する理由は、介護などの必要性があるという明確な理由が多い傾向があります。 一方で、介護や生活問題が発生していても、そのことに気がつかないケースも想定できます。早期発見・早期介入によるスムーズな支援を行う方法に、積極的に支援者が介入するアウトリーチという手法があり、その手法を基本として、支援するよう努めてまいります。